

'23春闘ニュース



発行元：神奈川県労働組合総連合 - 横浜市中区桜木町3-9横浜平和と労働会館 6F TEL045-212-5855 / FAX045-212-5745

年末一時金闘争の状況

7割の職場で昨年を上回る

物価が高騰するなかで、生活を守るための年末一時金闘争がとりくまれています。多くの職場で10月中に要求書を提出し、11月の初旬に回答を引き出して団交などをとりこんでいます。

全体的には、昨年度を上回る回答を引き出す職場組織が増えています。また、不当な回答に対し、とりくみを強めてはね返す組織もあります。

港湾労組では、集団交渉において物価高騰から労働者の生活を守る必要性を、使用者側に強調し理解を進めるなどして、7割の交渉単位で昨年を上回り、下回っているところはありません。運輸業などは、労働者確保に対する経営者の危機感もあり、厳しい状況ながらも、昨年度の月数を上回る回答や「物価調整手当」として上積みを引き出しています。ある職場では、経営者から「物価高騰は関係ない、デフレ時は引き下げているのか」という趣旨の不当な発言もあるなかで、議論・闘いを強め昨年を上回る回答を引き出しています。来春闘にむけても、ストライキも含めて闘いを強化することの議論を始めています。

24時間無期限ストを構えて

医労連は、コロナ対策の支援金の有無などで経営者の対応が分かれています。昨年を5%ほど上回る回答の職場もあれば、昨年をかなり下回る回答の職場もあります。

「かがみ田苑労組」では、年末一時金の支給率を例年の半減とする等、幾つもの不当な回答が出されました。しかし、生活が成り立たず離職者が出ると皆が怒り、「24時間無期限スト」で徹底的にたたかう体制をつくりました。交渉を進める中で年末一時金半減の撤回が実現しましたが、他の不利益変更の撤回もめざし、たたかう姿勢を緩めていません。

JMITUでも昨年を上回る回答を引き出し、全国一般でも日吉自動車学校支部が10万円上回る回答などプラス回答を引き出し、物価高騰対策の手当を支給させる職場もあります。

福祉保育労では3つの職場が回答を引き出しており、正規職員の一時金とともに、パート職員の賃金引き上げや慶弔休暇の有給化など労働条件改善も実現しています。化学一般でも県内にある2組織が昨年を上回る回答となっています。

公務労働者の賃金確定闘争

会計年度任用職員の処遇改善でも前進

国の人事院勧告や、県・政令市の人事委員会勧告などに基づき、公務労働者の賃金確定闘争がとりくまれました。

県や横浜市では、国を上回る勧告が出され基本的に妥結しています。県では、一時金成績率の拡大拡大の提案がありましたが、交渉によって成績率格差を圧縮させています。また、地域手当の引き上げも勧告通り行うことや、61歳でのリフレッシュ休暇の新設などを勝ちとっています。

人事院勧告では、一時金について「勤勉手当」を引き上げることが示され、正規職員は0.1月引き上げられるのに、「勤勉手当」が支給されていない非正規雇用である会計年度任用職員との差別的処遇が問題になっています。横浜市では組合からの要求により、会計年度任用職員は「期末手当」を同水準引き上げる、画期的な成果を実現しています。

三浦市職労や公務公共一般小田原支部では、会計年度任用職員の賃金引き上げを、正職員と同様に4月に遡及して実施する成果も獲得しています。4月遡及については、県内の他の自治体にも広がってきています。

ケア労働者などの賃金も改善

看護師などケア労働者の賃金引き上げでも成果がありました。県病院労組では、これまで4千円だった手当額を10700円に引き上げさせています。横浜市においても、2000円を7000円に引き上げさせるとともに、対象から外されていた薬剤師も対象とし10月遡及で支給する成果を実現しています。また、厚木病院労組でも前進回答を引き出しています。